

平成27年1月30日(金)発行

2月 

おおみ

第10号

大海小学校 学校だより

夢のある人生プラン
和菓子作り体験 6年生
〔かほく市学校経営戦略プラン〕

立 春

校長 油井 宏樹

2月3日が節分で、2月4日は「立春」です。立春とは、「春が立つ」と書き、これからだんだん暖かくなってきます。しかし、実際は一年で一番寒い時期にあたります。

禅寺では、新しい一年を迎える立春に、その一年が良い年であるようにと願いを込めて、「立春大吉」という言葉を縦書きし、玄関に貼ります。この四つの文字は、左右対称で、表から見ても裏から見ても「立春大吉」と読めます。「立春大吉」の逸話があります。昔、立春大吉と書かれたお札が貼ってあった家に鬼が入ってきました。ふと鬼が振り返ると、さっき入る時に見えた立春大吉の文字が見え（鬼から見て裏側から見ている）「まだ入ってなかったのだ」と思い、逆戻りして出て行ってしまった、というものです。これにより、「立春大吉」のお札を貼っていると厄除けになると言われています。

さて、立春にちなんで違う話をもう一つ。「立春の卵」ってご存じでしょうか。中国の古い本に「立春なら卵が立つ」と書かれてあった本が発見され、それを信じた人々が立春の日だけ卵を立てることに挑みました。生卵が本当に立つのでしょうか。今から50年以上前、この話を聞いた世界中の人が卵を立てようと試みました。するとどうでしょう、なんと卵が立ったのです。この不思議な現象に、世の中は「なぜ立つんだ」と大騒ぎになりました。立春と何か関係があるのだろうか。太陽に関係があるのかな…と、いろいろな意見が出ました。この時期に生きていた雪の結晶を発見した中谷宇吉郎は、「立春の卵」という随筆まで著しました。「卵は立春に限らず、いつでも立てることが出来る。新鮮な卵の表面にある3点以上の出っ張りを足として卵を支え、卵の重心をそこに落とすべく、少しだけ根気よく作業すれば、生卵であっても、ゆで卵であっても立つのである。」と書の中で結論づけています。

家で時間があれば、挑戦してみましよう。誰がやっても立ちます。みなさんも、あきらめずにやってみてください。あきらめず、根気強くやると、きっとできます。

何百年も世界中で卵が立たなかったのは、皆が卵は立たないと思いこんでいたからです。立たないと思っていたから誰もやらなかったのです。物事、最初から無理だ、できないとあきらめていては何も解決しないし、何もできません。まずやってみることが大切であるということを教えてくれているのではないのでしょうか。